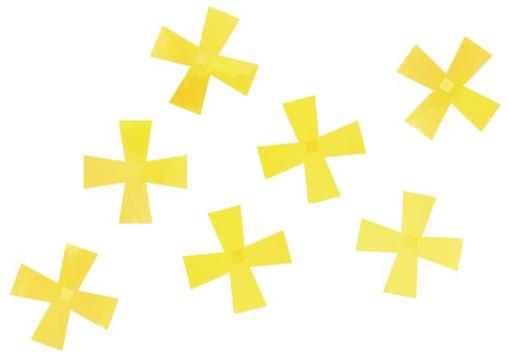


# 菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 42  
平成30年10月



当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。



たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。

## contents

- P.2 院長あいさつ
- P.3 多職種連携支援を考える「事例検討会」の開催
- P.4 平成30年度 第1回医科・歯科連携研修会  
日本DAMT隊養成研修に参加して
- P.5 出前講座を行いました！  
ふれあい看護体験実施報告
- P.6 指宿南九州消防組合との事後検証会  
暑気払いをしました
- P.7 暴漢を取り抑えろ！～はじめての暴漢対策研修会～  
採用者紹介
- P.8 指宿 菜の花通信  
外来診療担当医一覧

## 理念

患者さまにやさしく、

地域に信頼される

良質な医療の提供をめざします。

## 運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。





# 第1回 職員合同宿泊研修を 終えて

平成30年6月29日、休暇村指宿に一泊し、職員合同研修会を行いました。総勢63名の職員が参加し、“指宿医療センターの未来を考える”をテーマに6班に分かれてワークショップを行いました。初日の夜は国立病院機構埼玉病院名誉院長の関塚永一先生から“病院運営に大切な5つの事”と題して90分間、ご講演を頂き、関塚先生を交えて楽しい懇親会も開かれました。

関塚先生は現在、セコム医療システムの顧問をされていて、ITを活用した医療経営にも詳しく、今後の指宿医療センターの在り方に関して関塚先生から貴重なアドバイスを頂きました。

2日目の6班各班のワークショップ成果発表後の講評では、関塚先生から応援エールまで頂き、非常に感慨深い研修会だったと思います。日頃、私が院長として思い悩んでいる事を職員みんなで一生懸命考え、同じ方向を向いて“私たちの病院をいかに発展させるか”という思いを共有できた意義深い研修会でした。

ワークショップの発表内容を私なりの解釈で発表順に簡単に紹介します。

**6班**：患者満足度をさらに向上させるために。待ち時間に注目、掲示板システムで医療クイズを流しては、花や絵の展示会を企画しては、外来図書を設けては、そして何よりも、職員の満足度を向上させる努力が必要。



**1班**：地域に愛される病院にするために。断らない医療、HCU利用について、マタニティサービスの工夫（フランス料理など）、認知症カフェの設置、臨床美術師、オレンジナース、褥瘡認定師の育成、患者会で仲間を増やす。



**2班**：当院の強みと弱みについて。魅力的な職員を育てるために院内研修会を複数回行う、後日の質問に答える、職員対象の意見箱を設置する、接遇の向上、外来患者さんへ待ち時間をより具体的に伝える。



**5班**：地域に頼られる病院にするために。返書作成率48.7%を改善し、かかりつけ医からの紹介を増やす、指宿地区から他医療圏（鹿児島市）への流出率48%を再考、当院を經由した連携：かかりつけ医 ⇄ 当院 ⇄ 他医療圏を構築する。



院長  
鹿島 克郎

3班：明日からできること・DPC。平均在院日数を11.7日→12.8日へ、入院期間Ⅲが多い(>50%)、Ⅲ→Ⅱへ、入院期間Ⅱを全国平均並みに増やす、退院時リハビリ指導料を再考。

4班：当院の病床機能分類に応じた病棟編成について。包括ケア病棟をつくり、人材の一部を在宅医療にシフト、在宅復帰へ貢献、HCUの廃止、透析室専任看護師育成。

今回の研修会の発表内容は、パワーポイント原稿で職員に回覧致しました。また、写真集と研修会に関するアンケート集計結果も冊子になり、参加できなかった方々も供覧できたと思います。そしてこれらの貴重な意見や体験を具体的な形に変えるために現在、各部会で鋭意検討中です。年内にはいくつか具体的な形が出来るはずです。職員全員で悩み考え行動すれば、大きな事ができると予感できた研修会でした。



## 多職種連携支援を考える「事例検討会」の開催

地域医療連携室 濱田 里香

9月5日に当院研修センターに於いて「他職種連携が必要な方へよりよい支援を行うために」ということを目的に医療・介護従事者が参加し事例検討会が開催されました。

この研修は、指宿市在宅医療・介護連携推進協議会、指宿医師会、指宿歯科医師会、指宿市薬剤師会、鹿児島県介護支援専門員協議会指宿支部と当院による合同開催で100名を超える参加がありました。参加者は、各事業所からの介護支援専門員や医療施設からは医師、看護師、薬剤師、歯科衛生士などたくさんの職種の方々と顔を合わせることができ頼もしく感じました。

事例は「介護度の高い患者の在宅への支援」と「患者と家族の意向に相違のある事例」の2事例をそれぞれグループワークを開いて検討していきました。グループワークではそれぞれの職種で専門的な視点での意見

を聞くことができ、貴重なグループワークとなりました。その中では「まわりの人へのサポートが必要」、「早期からケアマネとも関わりをもつことで家族も在宅での生活を送ることにイメージを持つことができ安心にもつながるのではないか」という意見がありました。また、「それぞれに問題となっていることを出し合って解決に向け検討したこと」、「患者を在宅で看ることに家族がストレスとならないように自宅でも家族のせいではないということを話をしている」ということなど、これまでの貴重な経験をふまえた話も聞くことができました。

今回の事例検討会で意見を交わしたことが円滑な連携関係を作り、患者・家族の思いに寄り添える医療と介護の充実につながると確信しました。今後、それぞれの職種で役割発揮されることを期待したいと思います。



# 平成30年度 第1回 医科・歯科連携研修会



看護師長 藤本 信子

8月10日、NPO法人「口から食べる幸せを守る会」理事長の小山珠美先生を講師にお招きし、「摂食・嚥下障害へのアプローチ」をテーマに講演会を行いました。院外より73名、院内より38名、計111名の方にご出席頂きました。また、今回は講演の前に院内ラウンドも行われました。

院内ラウンドでは、当院に入院中の4名患者さんの昼食の介助を、実践をまじえて指導して頂きました。小山さんについては、「先生が食事介助をすると、今まで食事をしなかった患者さんが、魔法のように食事を摂られるようになる」と聞いていました。実際に、ポジションニングや、食事の配置の工夫、患者さんにあったスプーンの使用等で、これまで食事に全介助を要していた患者さんが自身で食事を食べ始めた時には、ラウンドをしていたスタッフ全員が「すごい」と驚きを隠せませんでした。私たちが理想的な食事介助を実践できていないことを痛感すると共に、小山先生の、人間の可能性を信じる熱い想いを感じました。魔法では無く、小山先生の熟練した技術が患者さんの力を引き出していることがわかりました。

講演では、正しいポジションニング、各患者さんに適した食事形態の選択、見た目の美しさ、患者さんが食べたいと感じる物・量で必要カロリーを摂取する方法などをお話し頂き、知識の習得のみならず、小山先生の「口から食べる幸せを守る」という信念に心を動かされました。

今回学んだことを実践に活かし、知識、技術を向上し、一人でも多くの患者さんが口から食べる幸せを感じられるよう、支援していきたいと思えます。

## 日本DMAT隊養成研修に参加して

DMAT看護師 古川 領太

DMAT (Disaster Medical Assistance Team) とは阪神大震災での医療体制を教訓に地震・大雨などの自然災害、列車事故・交通事故などの人的災害といった災害時の被災地に迅速にかけつけ、おおむね48時間以内の急性期治療を行うための専門的な訓練を受けた機動性を備えた医療チームです。当院から医師1名、看護師2名、業務調整員として薬剤師1名、診療情報管理士1名の5名で平成30年7月2日～5日(4日間)国立病院機構災害医療センターでDMAT養成研修に参加させていただきました。

研修は、初日と2日目はDMATの基礎やトリアージ方法、災害時の外傷等、EMIS(広域災害救急医療情報システム)の講義がありました。EMISはパソコン・携帯電話などの衛星通信を使用し災害時に被災した都道府県を越えて医療機関の稼働状況など災害医療に関わる情報を共有し、被災地域での迅速かつ適切な医療・救護に関わる各種情報を集約・提供することを目的としています。災害医療対応の原則はCSCA(C:連携と指揮、S:安全、C:情報伝達、A:評価)が基本であり、また行動することで



他のチームとの協力もスムーズに行えることも学びました。トリアージではSTART式とともに生理学的評価や身体的評価を3分以内に行うPAT式も学びました。3日目は実技・筆記試験がありました。最終日は内閣府施設(立川広域防災基地及び災害対策本部予備施設)に移動し、実際に災害時と同じシミュレーションでの訓練だったのでかなり貴重な体験を学ぶことができました。

3日目の夜はインストラクター・講師、他のチームとの交流会がありました。来たるべき災害時に協力し行動をとるためにも情報を共有できる会となりました。

現段階ではDMATが発足したばかりで、要請があったとしてもDMATを派遣することは困難な状況だと思います。しかし、被災者の命を守るため迅速に行動し治療が行えるよう今後も継続的に研修に参加して知識・技術を習得していきたいと思えます。



## 出前講座を行いました！ ～『栄養』に関する情報、お届けします～

栄養管理室 崎向 幸江

まだ、残暑が厳しいお盆過ぎ、山川老人福祉センターにおいて、70～95歳の方々、約30名に対し、『高齢者の栄養管理』について、出前講座を行いました。内容は、バランスのよい食事や不足しがちな栄養素、加齢に伴う体の変化などを話した後、具体的にどうすればよいかというお話をさせていただきました。約1時間でしたが、皆様、熱心に耳を傾けていただき、話の要所所で頷かれる方も見受けられ、とてもよい雰囲気の中、進めることができました。栄養関係の出前講座は、5回目ですが、その都度、対象者に合わせ、できるだけ分かりやすく、情報の押し売りにならないよう努めております。そのため、今回、実施したアンケートで、ほとんどの方がよく分かった・分かったと回答していただいたこと、また、「いい勉強になった」「はっきりしていてよく聞こえた」「まだ、聞きたかった」などのご意見をいただいたこと、恐縮ですが、大変嬉しく思います。

『栄養』の話というと、「むずかしい」「いろいろ制限される」「食べたいものが食べられなくなる」などマイナスのイメージをお持ちの方が多くことが現状ですが、常日頃、そのイメージを払拭したいと考えております。話を聞いた方々が、日頃の食事に目を向け、お伝えした情報の中から、自分に必要なこと、これならできるかもしれないと思うことを持ち帰り、ひとつでも多く実践していただけるような出前講座を目指しています。そして、今後も地域の方々の健康をサポートできるよう、『栄養』に関する情報の発信を続けていきたいと思っております。

## ふれあい看護体験実施報告 平成30年8月3日(金)

「ふれあい看護体験」を実施しました。  
地域の高校生7名の参加がありました。

### ふれあい看護体験に参加した高校生の感想

- 看護師さんは、赤ちゃんや高齢な方までたくさんの患者さんに対して、素敵な笑顔と声かけを行い、とてもかっこよく見えました。
- 助産師に興味がありましたが、仕事内容をあまり知りませんでした。今日の体験で助産師を目指してみたいと思いました。
- 看護師さんの姿を見て、私も患者さん・家族の方に心から寄り添い、信頼される看護師になりたいと思いました。専門学校に行き、無事国家試験に合格したら、鹿児島県に残って鹿児島の医療に貢献したいと考えています。
- 今回の体験で看護師になりたい気持ちが強くなりました。頑張ります！
- 私に看護師や助産師が向いているのかとても不安で悩んでいましたが、今回の看護体験で「やっぱりなりたい」と思うことができました。これからの受験や大学に入ってから心が折れそうなときは、今日のことを思い出します。



### 担当したスタッフの感想

高校生は緊張しながらも看護師と共に笑顔で看護を体験していました。看護体験の中で患者さんから感謝の言葉を頂き、やりがいのある仕事だということを実感していました。高校生の気づきから、私たち自身が看護のすばらしさをあらためて認識し、初心に戻る機会となりました。



地域を支える若い力の存在にとても心強く感じました。  
いつか一緒に働ける日がくることを願っています。

教育担当師長：國生 道代



## 指宿南九州消防組合との事後検証会

経営企画 入江 遼太

当院では、地域の救急隊員の技術向上のため、年に2回、指宿南九州消防組合との間で救急搬送症例の事後検証会を実施しています。去る8月31日(金)、平成30年度第1回目の検証会が当院地域医療研修センターにて開催されました。

今回の検証会においては、救急隊員が現場で判断に困った事例の検証のみならず、心停止時に積極的な蘇生措置を望まないDNAR(Do Not Attempt Resuscitation)の患者の場合にどのような対応を取るべきか、というテーマについての検討も行われ、医師会や地域の訪問看護ステーションのスタッフの方にもご参加いただきました。

平成30年8月現在、DNAR患者の搬送についてのプロトコルが整備されている自治体は全国でも4つしかなく、鹿児島県については未整備です。このような状況下において、まずは当院と指宿南九州消防組合との間でDNARについての体制整備を進めて行き、やがて指宿地域全体へ、さらには鹿児島県全体へと広げていければと考えています。



## 暑気払いをしました

契約係 池谷 春香

8月31日(金)に指宿いわさきホテルにて暑気払いのビアガーデンを開催しました。

医師、看護師、コメディカル、事務職に加え救急隊の方々も参加して頂き、参加者60名ほどと多くの方々に参加しました。

病院職員と救急隊の方々の仕事の中で顔を合わせる



ことはありますが、ゆっくりと話す機会がなかなか無いため、各テーブル普段なかなか出来ない話などで会話がとても弾んでいるようでとても楽しそうでした。事務職である私も異業種の方々と話す機会がほとんど無いため、今まで知ることのできなかった医療現場での話などをたくさん聞くことができとても勉強になったと同時に人の命に関わる仕事の大変さというものを改めて感じさせられました。これを機に病院職員と救急隊のお互いの顔が見えたことにより今後の仕事がより円滑に進み、医療の質の向上にも繋がっていくのではないかと思います。

また来年もこのような異業種の方々と交流できる機会があればいいと思います。

# 暴漢を取り抑えろ！ ～はじめての暴漢対策研修会～



庶務係 有村 康平

最近よくニュースや新聞で目にする病院での事件をうけて、対策の一環として6月25日に当院で初の「暴漢対策研修会」を実施しました。

院内の会議室で、当直に入る職員を対象に行い、20名以上が参加しました。

講師として、指宿警察署の生活安全課から3名の方に来て頂き、実技を中心とした、暴漢への対応を教えて頂きました。

最初は、警察署の方が「さすまた」や「盾」などの道具について解説し、使用方法について講義した後は、実際に当院職員が道具を使って模擬訓練を行いました。

模擬訓練では、当院職員3名が、犯人役（1名）と職員役（2名）に分かれて、道具を使った相手の抑制方法を実践しました。初めて使用する道具で扱いにくく苦戦していましたが、無事に抑えることができました。

なかなか経験できない研修で、たいへん勉強になりました。また、今回の研修で学んだことを活用する事態を起こさないことも施設管理上、大事だと感じました。



## NEW FACE

## 採用者紹介



おだぐち あすか  
小田口 亜寿香

採用 6月1日  
職名 助産師(非常勤職員)  
配置先 看護部  
分からないことが多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、一生懸命、頑張りますのでよろしくお願ひします。



よしなが  
吉永 ゆかり

採用 6月1日  
職名 事務助手(非常勤職員)  
配置先 中央情報管理室  
初めて携わる仕事なので、右も左もわからず色々ご迷惑をおかけすると思いますが、早く慣れるよう頑張りたいと思います。不安もいっぱいですが、よろしくお願ひします。



ひご なお とも  
肥後 直 倫

採用 8月1日  
職名 外科医師  
配置先 医局  
種子島医療センターから移動して参りました。指宿には家族で来ていますので、仕事を頑張りつつ指宿の地を楽しみたいと思っています。ご迷惑をお掛けすることもあると思いますがよろしくお願ひします。



まる やま み さと  
丸山 水 恵

採用 6月7日  
職名 医局事務補助(非常勤職員)  
配置先 医局  
初めてのことばかりでご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、早く慣れるように頑張ります。宜しくお願ひします。



## 田舎医者の流儀 (86)・・・反響

7月の初めに「田舎医者の流儀」と題する本を自家出版した。平成21年4月より、当院に勤務するようになり足かけ10年、その間、病院のホームページに「菜の花通信」というコラムを書いてきた。月に一回程度をめぐりにしていたが、サボらずにやってきたようで100号を超えた。更に、この7月をもって殆どの公の仕事を引き退した。一つの区切りと考え、本にすることにした。

原稿は今迄の「指宿 菜の花通信」のまま大きく手を加えたわけではない。ただ、例えば「JR指宿線」と書いてきたのは、正確には「JR指宿枕崎線」であるので、そのように統一した。表紙は開間岳の山頂から雲が滝のように下っているもの、巻末に鹿児島県の希少種の花の写真を載せた。これはいずれも家人が長年撮りためた写真の中から選んだもの、なかなか評判が良かった。カッコいい本が出来たと、お褒めを頂いたがこれは熟練の編集人・大迫さんの力に負うところが大きい。本人は大した「努力」はしていない。

出来上がった本を、恥ずかしながらお送りしたところ、多くの方から丁寧なお手紙、メール、電話を頂いた。大学生時代、仲の良かった友人は新聞記者になり、年賀状のやり取りをするぐらいであったが、「若い時からの友人の本を見てうれしい」と言ってくれた。医学生時代「同棲」した友人医師(男ですよ)はそれぞれ違う道を歩いたけど、自立して歩んだことをみてくれていた。本が縁で友人たちの近況が知れたのも嬉しかった。

本の反響で一番多かったのは、コラーゲンについての記事であった。『コラーゲンは蛋白質である。蛋白質は人の体ではそのまま吸収される事はない。蛋白質はアミノ酸に分解されてはじめて体の中に入っていく。蛋白質がそのまま体の中に入ると、異物と認識されてたちまち抗原・抗体反応が起こり、大変な「病気」になってしまう。コラーゲンは分解されてアミノ酸として吸収されるが、そのアミノ酸は体の中で再びコラーゲンになるわけではなく、その他のいかなる蛋白質の構成要素になりうる。コラーゲンを食べたから、体の中にコラーゲンが増えるわけでもない。そんな事は現代科学の常識である(1937年 ルドルフ・シェーハイマー)。従って、それによって体調が良くなったというのは奇妙な「個人の感想」でしかない』(田舎医者の流儀 P.26)

この記事を読んだご婦人方から「コラーゲンは効果ないの」という意外そうな反響が多かった。残念ながら、その後もコラーゲンが「効く」という証拠は出ていない。(国立健康・栄養研究所 HP参照)



## 外来診療担当医一覧

平成30年10月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	南	鹿 島	川 畑 園 田	鹿 島 南	
総合診療内科	午前	園 田	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	小 野	千 堂	大 重	小 野	大 重 千 堂	
小 児 科	午前	相 星	相 星	相 星	相 星	相 星	
	午後 外来 予防接種 健診	荒 武 応援医師	荒 武	荒 武 応援医師	荒 武 応援医師	荒 武 関	午後診療受付 14時～16時(水曜のみ15～16時) 予防接種(毎週月曜・水曜・金曜日:要予約) 受付13時30分～14時30分 健診(要予約) 受付14時～14時30分
外 科	午前	(手術日)	宮 園 肥 後	宮 園 肥 後	(手術日)	宮 園 肥 後	金曜は予約患者のみの診察となります。
泌尿器科	午前	米 澤	(手術日)	米 澤	米 澤 (第三木曜休診)	米 澤	木曜日は第三木曜のみ休診となります。
腎 臓 内 科	午前	(休 診)	(休 診)	(休 診)	屋 応援医師	(休 診)	受付は午前11時までとなります。
産 婦 人 科	午前	大塚/江夏	大塚/江夏	(手術日)	大塚/江夏	大塚/江夏	1ヶ月健診(月・金曜日:要予約) 診療受付14時～
	午後	大 塚 江 夏	大塚/江夏 助産師 母乳外来	助産師 母乳外来	大塚/江夏 助産師 母乳外来	大 塚 江 夏	午後診療受付(水曜日以外) 14時～15時(再診のみ) 母乳外来(毎週火・木曜日) 母乳外来(毎月第2・3水曜日)
眼 科	午前	尾 辻	尾 辻	尾 辻	尾 辻	尾 辻	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。 木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	
専 門 外 来	午前	呼吸器内科			呼吸器外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 予約制(午前診療のみ) 小児循環器 毎週月～金曜日 予約制(14時～15時) 小児慢性疾患 毎週月～金曜日 予約制(14時～15時) もの忘れ外来 毎週水曜日 予約制(14時～16時)
	午後	小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	もの忘れ外来 小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	小児慢性疾患 小児循環器	
内 視 鏡 検 査		大 重 千 堂	大 重 小 野	小 野 千 堂	藤 井 大 重 千 堂	赤 崎 小 野	木曜日の千堂医師の検査は、第2と第4週に行います。
緩 和 ケ ア 外 来		要 予 約					随時予約受付

- 受付時間 午前8時30分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

面会時間 平日は午後2時から8時まで  
土曜、日曜及び祝祭日は  
午前11時から午後8時まで

発行: 独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター  
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地  
TEL: 0993-22-2231 (代表)  
FAX: 0993-22-2772 (地域医療連携室)  
URL: <http://ibusukimc.jp/>  
印刷: 隈文社印刷株式会社

